



多摩美術大学校友会会報 「alT」アルティ

The alumni association of Tama Art University

No. 13 目次 Contents

- 02 特集1 第13回定期総会 at 八王子キャンパスご報告
新・事務局長、就任理事のご紹介／校友会支部事業企画COMPETITIONのご報告
- 04 特集2 校友会正会員カードできました！／出前アート大学のご報告
- 05 校友会奨学金制度
- 06 TAMABI people's now vol.004 唯野未歩子
- 08 全国校友会支部・有志活動のご報告／事務局からのお知らせ

| | | |
|-----|---|---|
| alT | 2 | 3 |
| 1 | | 4 |

1 正会員カード
2 1971年 美術学部の八王子キャンパスへの移転開始当時
3 1993年 八王子キャンパス整備計画開始前
4 2007年 八王子キャンパス現在

第13回定期総会 at 八王子キャンパスご報告

昨年に引き続き、定期総会ならびに各種イベントを7月21日(土)に八王子キャンパスで行いました。この日は、受験生、一般の方が来場されている多摩美術大学のオープンキャンパスの日でもありました。キャンパス計画が終了し、新しい図書館など新校舎が建ち並ぶ学び舎に、卒業生の方々も驚かれたのではないでしょうか。

来年度も八王子キャンパスにて行う予定ですので、ぜひご参加ください。



第13回定期総会

平成18年度の事業・収支、また今年度の事業計画を正会員の皆さまに報告し、承認いただきました。今回、定期総会に初めてご出席された正会員の方も多くいらして、活発な質疑応答がありました。公平で健全な校友会運営のために、会員の皆さまのご意見は大変貴重なものでした。今後も、ご協力をお願いいたします。別紙にて第13回定期総会で報告された議事録と収支報告をお知らせしています。回答持ち越しの質疑もございましたので、今回の定期総会のお知らせを発送する際に、理事会からの回答を同封いたします。そして総会終了後には、平成19年度私費留学生授与式を行いました。



第13回支部長懇談会

校友会では毎年、定期総会にあわせて各支部の代表者をお招きして、大学・校友会本部・支部の間で情報交換を行っています。大学からは藤谷宣人理事長もご出席されました。今回は、「平成19年度校友会支部事業企画 COMPETITION 一シブコン」に採用された千葉支部のご報告を中心に、各支部からの活動報告や現状の問題点、今後の展望についてお話をうかがいました。本部からは「出前アート大学」の活動を紹介し、将来的に支部との連携に繋げていきたいという提案をいたしました。

新・事務局長、就任理事のご紹介

校友会の運営は、卒業生の代表である役員のご協力で成り立っています。

ご自身のお仕事の合間に時間を使って校友会を支えてくださっています。

平成19年度に就任された第5期の役員の方々をご紹介いたします。



事務局長

武正秀治 Hideji TAKEMASA ('80プロダクトデザイン)

本年度から校友会事務局になりました武正秀治です。現在は上野毛校舎の「造形表現学部デザイン学科」でプロダクトデザインを教えながら、デザインの仕事をしております。まさか自分が…という感じですが、事務局長という大任に際し、会長、副会長をしっかり支え、少しでもお役に立てればと気を引き締めています。ご存知のように、校友会の目標ところは「会員相互の親睦」、「母校である多摩美術大学の発展」および「芸術文化の発展への寄与」であります。この目標へ向けて「自由と意力」を掲げる母校同様、世代や肩書きを超えた自由で闊達な交流の場として、この校友会がますますの発展を遂げられるべく、微力ながら尽力してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

平成19年度役員構成

鶴見雅夫 ('59油画) 会長

青戸英子 ('67染織) 副会長

河内成幸 ('73油画) 副会長

田淵 韶 ('76建築) 副会長

神谷紀雄 ('63彫刻) 監査

安藤 亨 ('64図画) 監査

武正秀治 ('80PD) 事務局長

下田義史 ('65油画) 支部長理事

上村二基 ('64国画) 理事

松野 勉 ('64国画) 理事

富岡俊樹 ('66国画) 理事

清水行雄 ('67GD) 理事

中野憲之 ('68国画) 理事

清水満久 ('71GD) 理事

須田基揮 ('74油画) 理事

安倍千隆 ('75彫刻) 理事

伊藤泰夫 ('76油画) 理事

野田裕示 ('76油画) 理事

森 博美 ('76) 理事

和田則夫 ('77PD) 理事

菅原公毅 ('81PD) 理事

柏木 弘 ('81染織) 理事

坂井忠平 ('82建築) 理事

田中秀樹 ('84PD) 理事

伝宝詩子 ('89芸術) 理事

塙川岳 ('91油画) 理事

末房志野 ('98GD) 理事

清田義英 名誉会長

勝呂 忠 ('50油画) 顧問

東海林 隆 ('54国画) 顧問

はじめまして、私は広告写真家として車、建築、化粧品、プロダクト等を中心とする撮影をしております。多摩美で学んだことが基盤となり、また本学の同窓生に会うたび多摩美パワーを感じます。この度、理事に推薦され微力ではありますが諸先輩はじめ関係各位のご指導のもとに任務を遂行できればと思っております。



理事

清水行雄 Yukio SHIMIZU ('67グラフィックデザイン)

校友会に関わってまだ日も浅い私が大役を仰せかかり、お引き受けしたものの、直正、少々戸惑いを感じてきました。ですが、先輩方の努力によりここまで大きくなれていた校友会であり、その活動が現役学生、卒業生、留学生などにとって大きな支えとなっていることを知り、私もなんらかのかたちでお役に立てればと思っています。



理事

野田裕示 Hiroki NODA ('76油画)

校友会に関わってまだ日も浅い私が大役を仰せかかり、お引き受けしたものの、直正、少々戸惑いを感じてきました。ですが、先輩方の努力によりこれまで以上に育てられた校友会であり、その活動が現役学生、卒業生、留学生などにとって大きな支えとなっていることを知り、私もなんらかのかたちでお役に立てればと思っています。



理事

森 博美 Hiromi NODA ('76デザイン)

卒業して、早30年以上の歳月が経りました。私は、多摩芸術大学の立ち上げ時に声をかけていただき、以後外部サポートとしてお手伝いをしてきました。ですが、先輩方の努力によりこれまで以上に成長した校友会であり、その活動が現役学生、卒業生、留学生などにとって大きな支えとなっていることを知り、私もなんらかのかたちでお役に立てればと思っています。



理事

和田則夫 Norio WADA ('77プロダクトデザイン)

校友会の皆様に、出前アート大学の立ち上げ時に声をかけていただき、以後外部サポートとしてお手伝いをしてきました。ですが、先輩方の努力によりこれまで以上に成長した校友会であり、その活動が現役学生、卒業生、留学生などにとって大きな支えとなっていることを知り、私もなんらかのかたちでお役に立てればと思っています。



理事

柏木 弘 Ko KASHIWAGI ('81染織)

多摩美に入學して30年がたちました。あまり自覚はないのですが、いつの間にか若い卒業生たちと大先輩の方々の眞中あたりに来てしましました。世代の差こそあれ、美術やデザインの分野に興味があり、あこがれた経験をもつ人々の集まりは単なる親睦団体を超えた理想を求めるダイナミックな場になりうるものと思っています。



理事

田中秀樹 Hideki TANAKA ('84プロダクトデザイン)



校友会の目印 **café alt(カフェ・アルティ)**
校友会の拠点は、キャンパスの中庭に白いバラソルとチアのcafé alt(カフェ・アルティ)です。構内を歩き疲れた方々の休憩や集合場所になっていました。また併設していた校友会テント内では多摩美グッズ、多摩帝国美術学校校章ピンバッヂ(復刻版)、オープンキャンパスTシャツ、多摩美オリジナルTシャツを販売いたしました。



ホームカミングデイ2007 当たり年の卒業生へ

2007年にちなんで下一桁が同じ「7」になる卒業年の方を「当たり年の卒業生」とし、懇親会パーティーへご招待しました。今年は1957・1967・1977・1987・1997・2007年の卒業生でした。会場はcafé altにてガーデン同窓会と合同で行い、抽選で多摩美オリジナルTシャツをプレゼントいたしました。

来年は「8」が当たり年です!各年代の幹事役を引き受けくださる方を募集していますので、事務局までお問い合わせください。

ガーデン同窓会 すべての卒業生へ

卒業生ならどなたでも参加できるカジュアルな懇親会パーティです。鶴見会長の挨拶の後、懇親会をもって退任された茂木一成さん('60国画)より乾杯の音頭をとっていました。その後、テキスタイルとプロダクト専攻の学生にご協力いただき、退任された理事の皆さまへ感謝式をいたしました。また卒業生の古橋順越さん('61国画)によるバンドネオンの演奏も披露されました。



卒業生キャンパスツアー

在校生がソーコンダクターとなり、卒業生の皆さまをご案内いたしました。オープンしたばかりの新しい図書館や、キャンパスに点在する彫刻作品などを知りたい方にはぴったりの機会になりました。

シブコン 「SHIBUCOM」 校友会支部事業企画COMPETITIONのご報告

校友会では、会員の交流、親睦、会の発展のための有意義な支部活動を尊重し、支援しています。各支部の活動において問題に挙がるのは、予算不足でなかなか活動につながらないということでした。

そこで昨年度から新規事業として支部支援企画をスタートいたしました。事業企画書と予算書をご提出いただき、コンペティション形式で支援する支部を決定いたします。

平成19年度SHIBUCOM採用企画「千葉多摩美会展10周年記念」

2007年5月29日(火)~6月3日(日) 会場:千葉県立美術館第4室

報告リポート 5月30日(水)に鶴見会長はじめ理事、事務局で行ってまいりました。

その日は出品作家によるギャラリートーク、鶴見会長の講演「多摩美今昔」、千葉多摩美会展10周年記念パーティも行われました。この記念展では支部会員が投票で決定する若手作家育成を目的とした「奨励賞」が企画され、杉浦 充さん('94建築)、浅野絞子さん('02油画)が受賞いたしました。また歴代の支部長の斎藤 淳さん('48国画)、鈴木益躬さん('55油画)には、支部功労者として感謝状と現支部長の作品が贈呈されました。幅広い世代間の交流と、支部が会員の表現を応援する有意義な活動に支援金が活用されました。



校友会正会員カードできました!

会員(※1)の皆さんへ、これまで以上にサービスを充実していきたいと考え、正会員カード発行に向けて準備を進めてきました。会の運営を支える正会員(※2)へのメリットの一つがこの正会員カードです。卒業後も母校との結びつきを感じながら、社会で活躍して欲しいという願いを込めて平成19年度より発行いたします。準会員(※3)である在校生には卒業後に発行されます。

カードの提示で一部の学内施設が利用でき、また卒業生のご紹介による学外の特典は今後も増える予定です。皆さまのご協力をいただきながら、美大らしいネットワークを広げていきたいと考えています。

※1:卒業生、修了生は全員 ※2:終身会員を納入した卒業生 ※3:本学に在籍する学生

発行までの流れ

正会員の方

申込書・利用案内が後日届きますので、所定の申込書にご記入の上、事務局まで郵送ください。順次、発行送付いたします。

会員の方

正会員への手続き後、申込書・利用案内をお送りいたします。所定の申込書にご記入の上、事務局まで郵送ください。順次、発行送付いたします。

ご不明な点がございましたら事務局までお問い合わせください。

学内利用

…大学施設の利用について

1. 大学へ入校する際の身分証明

守衛所などでカードをご提示ください。正会員卒業生であることの証明になります。

2. 附属図書館の利用

カードをご持参ください。登録利用料なしに、八王子・上野毛校舎の図書館への入館と、館内利用ができます。資料の閲覧ができ、レファレンス・サービスを受けることができます。調査・文献複写・紹介状の発行などご相談ください。

3. 大学美術館の入館無料

カードをご提示ください。会員の方は、入館無料となります。また販売しているカタログなどの書籍を特別割引にて提供いたします。

4. 生涯学習センターの受講料補助制度

講座お申込みの際に、表示されている会員番号をお知らせください。会員の方は受講料を2割引いたします。

学外利用

…外部の特典ご協力先での利用について

校友会と提携している特典先にて、カード提示により、サービスの提供および商品の購入を受けることができます。ただし支払いは現金決済のみです。

現在ご協力いただいている特典先

画廊: gallery & cafe みるめ、ギャラリー現、ガレリア・セルテ、高円寺 Rakusai 美術館、画廊 KIZNA、銀座井上画廊、画廊るたん

宿泊施設: 石和びゅーほてるグループ、ヒュッテニボボ
鑑賞割引: 全国三越百貨店の美術展



授業No.012からNo.016

出前アート大学 のご報告

全国に拡大中!

4年目を迎えた「出前アート大学」。

今回は、授業No.012からNo.016までの5つの出前授業をご報告します。昨年度から地方からも申込みがあり、小学校(団体)など地域の方、現地在住の卒業生にご協力いただきながら、様々なジャンルの授業を開催してきました。ひとつの授業には、いつも多くの方々が関わってくださり、その度に皆さまの温かい心に触れることができます。「出前アート大学」をきっかけに、子ども達、地域の方、在校生、卒業生の輪が大きく広がっていくことを願いながら、今後も新鮮な授業をお届けしていくと考えています。活動に興味がございましたら、ぜひ事務局までご連絡下さい。

出前アート大学 on "tamabi.tv"
タマビ ドット ティーヴィー

www.tamabi.tv/alt/



授業No.012
立体色紙を作る一心を伝えるかたち
講師: 加藤雄章
('62図案(立体)・工業デザイナー)
日程: 2006年11月1日(水)・2日(木)
出前先: 横須賀市立鶴久保小学校6年生(123名)



授業No.013
6年缶一ひっくりかえってふりかえる
講師: 早川純子
('97大学院油画・絵本作家・版画家)
日程: 2007年2月5日(月)・6日(火)
出前先: 府中市立南町小学校6年生(71名)



授業No.014
動く4コママンガ
講師: 野村辰寿
('87グラフィックデザイン・アニメーション作家)
日程: 2007年3月10日(土)・11日(日)
出前先: 田中一村記念美術館(島内5、6年生18名)

人形を作て動かすアニメーションに挑戦です。身近な素材で作ったキャラクターを、グループの友達と協力して動かし、撮影します。2日間かけて楽しい6作品が完成しました。野村先生も驚く力作を、最後は大きなスクリーンに上映しました。



授業No.016
コラボレーションしよう 1+1=1
講師: 仲田智
('89大学院油画・美術家)
日程: 2007年9月3日(月)
出前先: 上士幌町立上士幌小学校4年生(25名)



二人で1つの作品を作ると、どんな風にできるかな? 思いきり表現ができるように、キャンバスをカラフルにコラージュし、その上に描きます。モチーフは相手の顔。絵を交換しながら、お互いの表現が混じり合って…ユニークで活き活きた作品が完成しました。

今後の予定
2007年10月には埼玉県寄居町立鉢形小学校、11月には奈良県御所市立秋津小学校・葛城小学校、2008年2月には東京都西東京市立けやき小学校、3月には広島県呉市くれアドベンチャースクールにて授業を予定しています。
出前アート大学ホームページ
www.tamabi.ac.jp/alt/demae-art_site/top.htm

校友会奨学生制度

Alumni Scholars '07

校友会には、2種類の奨学生制度があります。ひとつは私費留学生を対象とし、研究室から推薦される「私費留学生奨学生制度」です。これは毎年12月に行われる「多摩美術大学校友会小品展」と題したチャリティー展覧会の売上金の一部が奨学生にあてられる制度です。もう一方は全ての在学生が対象になり、「計画書」を提出していく応募制の「校友会奨学生制度」です。これは「計画書」のみを資料とし、研究内容、今後の計画を審査し選考する方法で決定いたします。大学の成績、家庭の経済的事情を審査基準にしないところが特徴でもあります。これは、取り巻く環境に左右されず、本人の意欲・やる気を大きく反映できるチャンスにしたいと考えているからです。毎年6月に募集します。多くの意欲ある学生さん、チャレンジしてください!



平成19年度校友会私費留学奨学生

| | |
|---------------|---------------------------|
| 奇 羅英(キ・ラヨン) | 大学院美術研究科前期博士課程絵画専攻(日本画)2年 |
| 洪 昇惠(ホン・スンヘ) | 大学院美術研究科前期博士課程絵画専攻(版画)2年 |
| 呂 瑞珊(ロ・サンサン) | 美術学部彫刻学科4年 |
| 劉 恵貞(ユウ・ヘジョン) | 美術学部グラフィックデザイン学科3年 |
| 高 周鴻(ゴ・ジュホン) | 美術学部生産デザイン学科PD専攻3年 |



平成19年度校友会奨学生

| | |
|--------|------------------------|
| 松 本文香 | 美術学部絵画学科日本画専攻3年 |
| 福 永有希子 | 美術学部絵画学科油画専攻3年 |
| 塙 直子 | 美術学部彫刻学科4年 |
| 横 田舞 | 美術学部グラフィックデザイン学科4年 |
| 大 嶋孝典 | 美術学部生産デザイン学科PD専攻4年 |
| 杉 山哲司 | 美術学部芸術学科3年 |
| 辻 井潤一 | 美術学部芸術学科4年 |
| 加 藤久美 | 造形表現学部造形学科4年 |
| 平 野稔明 | 造形表現学部造形学科4年 |
| 佐 藤洋美 | 造形表現学部デザイン学科4年 |
| 松 本旭史 | 造形表現学部映像演劇学科4年 |
| 田 中香織 | 造形表現学部映像演劇学科4年 |
| 石 原陽子 | 大学院美術研究科前期博士課程彫刻専攻2年 |
| 片 岡紗貴子 | 大学院美術研究科前期博士課程デザイン専攻1年 |
| 岩 上彩子 | 大学院美術研究科前期博士課程デザイン専攻2年 |



PD=プロダクトデザイン

Pick Up! 奨学生

平成8年度から始まった校友会奨学生制度で、これまでに145名の学生に奨学生を授与いたしました。授与にいたるまでの応募のきっかけや、どのように奨学生を活用されたのか、どのような活動をされているのか、ご報告いただきました。今回は、平成18年度奨学生の水谷江里さんと、今年度奨学生の大嶋孝典さんにお話をうかがいました。

水谷江里 (平成18年度奨学生 造形表現学部映像演劇学科3年)

Q1. 奨学生に応募した動機・きっかけはですか?

「季夏」を撮影する時、初めは全員、素人キャストで撮る予定だったのですが、役柄もあってと、なかなか見つからずプロの方に頼むしかない!となって。そうなると、どうしても予算が足りなくて…そんな時に掲示板を見て「これだ!」と思いました。

Q2. 応募時の研究内容は?

極力、会話による説明無しにどこまで映像のみで表現できるか?セリフを入れる事はある意味で簡単で、ある意味で非常に難しい。だから、セリフというものをきちんと捕らえる為にこの試みをしました。

Q3. 奨学生はどのように、何に使いましたか?

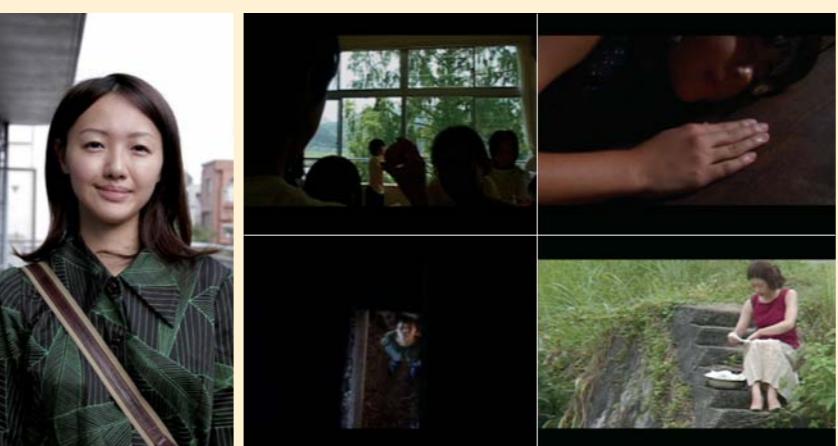
先に述べた様に、役者さんのお仕事料の一部として使用させていただきました。今回は撮影日数も長くまとまるたった出演料が必要になり、本当に助かりました。ありがとうございます。

Q4. 現在の研究・活動について教えてください。

現在はより表現の幅を広げるように努めています。私の作品は良くも悪くも判りにくいらしく、それは私の強みでもあると思います。ですが、それは意図したものではなくて結果なのです。なので、判りにくいういう事を含めてより良い表現になるよう、それなら納得していただける作品を作りたいです。

Q5. 今後の計画(野望・夢)について

生活を形成しているさまざまなフレームの中で表現を探求することに私は魅力を感じます。また同時に、フレームが想像以上に人を固着させていることも感じてきました。私は目的を達成する手段が選択できることをきちっと伝えたいと考えています。その一步として近くメーカーへの就職を予定しています。希望を持つ為には病を克服するだけではなく共存も考える必要があります。しかし同時に病そのものを回復する術を私は模索し続けたいと願っています。



大嶋孝典 (今年度奨学生 美術学部生産デザイン学科PD専攻4年)

Q1. 応募時の研究内容は?

相互的なパワーアシスト機能を持つ防御用装具の提案です。少し言葉を揉みほぐすと、怪我した脚を支えてくれる不思議な衣服です。スポーツ外傷を負った方々の心のアシストが出来ればと思います。

Q2. 奨学生に応募した動機・きっかけはですか?

生来のんびりとした私の性格をぴしゃりと引き締める為に、奨学生応募の期限を味方につけようと思ったのがきっかけです。

Q3. 奨学生はどのように、何に使いましたか?

課題制作費と展示会の準備資金として利用しています。

Q4. 現在の研究・活動について教えてください。

膝を中心としたスポーツ外傷の患者が、退院後の生活で抱える問題を解決する為に、デザインがどうあるべきかを提案しています。患者にとって毎日が回復の過程であり、そこには生活があります。身体が弱っている時は只でさえ気が滅入るのに、生活とデザインの不一致はすぐに心を辛くさくしてしまいます。これはどうかせんないかんと思い、現在取り組んでいます。

Q5. 今後の計画(野望・夢)について

生活を形成しているさまざまなフレームの中で表現を探求することに私は魅力を感じます。また同時に、フレームが想像以上に人を固着させていることも感じてきました。私は目的を達成する手段が選択できることをきちっと伝えたいと考えています。その一步として近くメーカーへの就職を予定しています。希望を持つ為には病を克服するだけではなく共存も考える必要があります。しかし同時に病そのものを回復する術を私は模索し続けたいと願っています。



これまでの作品から、左:木工玩具「Joint」、右:傘の柄「Line Rain」

TADANO MIAKO

Graduate department of Moving Images and Performing Arts



写真:坂本政十賜(89GD)

唯野未歩子 ただのみあこ 1973年10月2日生まれ。東京都出身。武蔵野美術短期大学デザイン科にてグラフィックデザインを学ぶ。卒業後、自主映画にかかり、「94年より矢口史靖と鈴木卓爾の自主製作プロジェクト「ワンピース」15作品に役者として参加する。'96年、多摩美術大学美術学部二部芸術学科に入學し、映画製作を学ぶ。'97年に斎藤久志監督作「フレンチドレッシング」で役者として本格的にデビューし、毎日コンクール・スピニチグランプリ新人賞を受賞する。塚本晋也、黒沢清、庵原一など日本を代表する監督の作品に出演するほか、TV、舞台、CM等でも活躍する。また、'03年よりNHKの番組「中学生日記」に脚本を提供している。'06年、「三年身籠る」で長編映画監督・脚本家デビューし、高崎映画祭・若手監督グランプリ受賞。'07年には、「それでもボクはやつてない」「アルゼンチンババア」などに出演。著書に、「三年身籠る」、「正直な娘」(マガジンハウス)。

今回ご登場いただいたのは、美術学部二部芸術学科(現在の映像演劇学科)を2000年に卒業された唯野未歩子さんです。役者として映画、ドラマ、CMなどに出演するだけでなく、執筆活動や映画監督など多彩な才能を発揮し、活躍の場を広げています。子供を三年間身籠ってしまう女性を主人公に、その事態を受け入れていく家族を描いた映画／小説「三年身籠る」は、悲劇とも喜劇とも受けとれる人間の営みを断片化した不思議なお話です。画面でも文体でも瑞々しい雰囲気が魅力的な唯野さんに、学生時代から変わらぬ創作への想いの一端をうかがってきました。



活躍の場が広いですね。

私は、監督、CM、小説など、同じようにご縁があればやらせていただいています。例えば、映画の場合は、プロデューサーの方と出会って、「こういうことがやれるといいね」とか、小説の時は、編集者の方から「こういうことをやりましょう」と話をするなかで決まり、その方と一緒にモノを作っています。役者をする時から、監督やスタッフの方と一緒にモノを作っていくやり方が身になじんでいるので、同じスタンスで仕事をしています。

長編として初めて書いた『三年身籠る』は、もともとはちょっと時間が空いたときに、何なく書いたシナリオみたいなもので、それは誰が撮ってもいいし、具体的に映画化をするとということは全然想えていたなかったんです。でも、「面白いから読んでみて」と推してくださった方がいて、人づてでプロデューサーと出会い、「良かったら監督してみない?」というふうに始まりました。小説は、いわゆる企画の一環として「ノベライズはどうですか?」と誘われましたが、私は「てにをは」もろくに分からないし、「ゲラって何?」という状態。ベテラン編集者のお陰で、どうにか本ができました。やれるかどうかわからないけどやってみよう、やったことがないからやってみよう。でも、書いてみたら映画とは違う楽しみがありました。

思ったとおりに映画は完成しましたか?

映画は、お金かかる点いろいろな方が参加するという点ではなから小説とは違うものだと思っていました。映画製作は、私が思いもしないことをスタッフの方やキャストの方が提案してくださったりするので、まるで違う面白味があって、喜びもありました。だからあまり迷わずにできました。普段の生活だったら「何を食べようか」と、一日中悩んでいたり、すごく迷うんですが…。

役者を始めるきっかけは?

多摩美に入学する前から自主映画が好きでした。私と同じ世代の人たちが、お金ももらわずに映画を作っていることを知って、面白いなと思ったんです。そして、参加したいと。そんな時、矢口史靖^(※1)さんや鈴木卓爾^(※2)さんが主催する「自主映画の作り方」というイベントをシアタートップスという小さい所でやっていました。そのイベントが終わってから、矢口さんや鈴木さんと観ていた人が通りでわいわい立ち話をしていた。その時に、「私も何かやりたいんです」と伝えたら、「来週いらっしゃい」と。それが自主映画に参加したスタートで、『ワンピース』という作品でした。たまたま拾っていただけて、本当に良い人たちだったので、運が良かったんだと思います。デビュー作の『フレンチドレッシング』('97 斎藤久志監督)も、自主映画と一緒にやっていた監督でした。その後、事務所に入りました。

上野毛キャンパスの思い出は?

夜間部だったので冬は寒くて、わりとコトコト帰る感じでした。私の頃は、たぶん課題の量がすごく多かったんです。しばらく後

自主映画の魅力とは?

自由度の高さです。スポンサーがいなくても、やりたいからやるという。映画は、たくさんの人と作るので、そこにはメンツ、例えば一人のスタッフがいないだけで空気が変わってしまう。自分が監督をする時にも心掛けしていましたが、撮影助手の女の子が一人いるかいないかで、作品が変わってきます。だから、人の影響力、人が関わるという点を大切に考えていました。

そして、同じことは二度ないということ。光が違つてしまったら、そこには人がいなかったらとか、いろいろな可能性を、今しかないという瞬間を撮っていくのが面白いです。

大学に入り直したのはなぜですか?

矢口さんや、鈴木さんとお話をしているときに、「映画が面白かったら、やっぱり映画を学んだほうがいいかもね」と言われました。ですから、演劇を学ぶとか劇団に入るとかはあまり意味がないよう思っていました。かといって、自分が書いたり、撮ったり、機械をいじるなんて、自信もない。何かやりたいなと思って、役者として参加しているうちに、大学に入り直そうと思ったんです。でも、大きくなれば時間稼ぎですね。

自分が何をして、何ができるのか決まらなかったので、何になりたいと思ったこともなくて。

どんな大学生活だったのでしょうか?

ある程度、現場を知つてから大学に入っているので、実際に現場で行われていることと、先生が教えていくことに少しづれを感じていました。私がすごく好きだなと思った他の学生の作品を、先生が頭ごなしに否定するようなことでしょうか。大学に入ってみないとわからなかったことですが。

周囲は、映画監督ないし写真家を志す学生が多かったと思います。すごく頑張っているのに、課題の量が多過ぎてスランプになっている子がいたり、何のために入ってきたんだろうかと悩む友達を見ているのが辛かったです。

指向性が合わないということもあります。例えば、私たちの時は、個人映画という一つの太い幹みたいなものがあって、劇映画はあまり評価されなかった。外にも世界があるんですけどね…。以前、多摩美にうかがって、今の映像演劇の学生にお話をさせていただいた時も、「ここでの評価は絶対じゃないしなにより今は時間がたっぷりある。社会に出てしまったら一日に何冊も本を読んだり、一日ボーッとしてしたり、映画を観たりするなんてことはできなくなるから、時間を大切にして、あとは気にせず自分の思う方を行ったほうがいい」という話をしました。

目標を聞かせてください。

逆に目標を持たないでやってきています。もしも「誰かのようになりたい」と思っていたら、役者から監督をやるとか、シナリオを書くとか、ほかのことをする時にすごく抵抗があったと思うんです。それがなかったぶん、いろいろなことができたというか。そういうものと決めてから、出会った人と一緒にやっていくことができればと思っています。

今後の予定を教えてください。

11月末に講談社から、(仮)『走る家』というタイトルで恋愛の短編集が出来ます。それから今、別冊文藝春秋で『いしのつとめ』というタイトルで連載をしています。

※1: 矢口史靖(やぐちしのぶ): 東京造形大学卒。大学在籍中から、自主映画を撮り始め「ウォーターポーライズ」「スwingガールズ」が代表作。

※2: 鈴木卓爾(すずきたくじ): 脚本家・俳優・映画監督、テレビドラマ「さわやか3組」「中学生日記」の脚本、映画「ひみつの花園」の共同脚本、映画「トキワ荘の青春」の演出、映画「パルコフィクション」の共同監督などで知られる。

全国の校友会支部・有志活動のご報告

●東北支部「いわて多摩美会」・報告

いわて多摩美会展Vol.18

会期:2007年9月17日(月)~22日(土)

会場:Gallery彩園子



多摩美術大学入学50年記念合同展 2007友・悠・遊・展

●多摩美術大学入学50年記念合同展・報告

2007友・悠・遊・展

会期:2007年3月27日(火)~4月1日(日)

会場:世田谷美術館区民ギャラリー



ぐんたま オープンキャンパスバスツアー2007

●兵庫支部・報告

原田の森の集い

会期:2007年5月6日(日)

会場:原田の森 兵庫県立美術館分館201号会議室

来春発行に向けて、兵庫県在住の卒業生の名簿作りをしています。



第2回多摩美愛知の会展

●群馬支部「ぐんたま」・報告

オープンキャンパスバスツアー2007

会期:2007年7月21日(土)

会場:JR高崎駅~本学八王子キャンパス



第2回多摩美愛知の会展

●愛知支部「多摩美愛知の会」・報告

第2回多摩美愛知の会展

会期:2007年7月28日(土)~8月5日(日)

会場:ギャラリータマミジアム



多摩教育の会

●多摩教育の会・報告

平成19年総会・研修会

会期:2007年8月6日(月)~7日(火)

会場:本学八王子キャンパス



第5回九州地区多摩美術大学校友会展

全国の校友会支部:北海道・東北・新潟・長野・群馬・栃木・千葉・神奈川・静岡・愛知・大阪・京都・兵庫・和歌山・奈良・滋賀・広島・佐賀・福岡・大分・鹿児島・ニューヨーク 各支部に興味がある方は事務局にお問い合わせください。

●『美術大学新聞』新聞部集合

『美術大学新聞』元部員再会座談会

会期:2007年8月21日(火)

会場:本学上野毛キャンパス本館1F会議室

『美術大学新聞』を探しています

1954(昭和29)年より新聞部によって『美術大学新聞』(1963年まで28号を刊行)が発刊されました。杉浦非水先生自筆の題字に一般新聞と同じプランケット版で記事も充実していました。本年8月21日、当時の新聞部メンバーが上野毛キャンパスに集結し、当時の編集風景がよみがえりました。多摩美術大学編纂室では未収集の『美術大学新聞』2号、3号、8号を探しています。どなたかお持ちの方は校友会事務局にご一報ください。



『美術大学新聞』元部員再会座談会



『美術大学新聞』第16号
昭和33年5月17日(土)発行



『美術大学新聞』創立廿周年記念号
第5号 昭和30年11月1日(火)発行

事務局からのお知らせ

第10回チャリティ展「多摩美術大学校友会小品展2007」の開催

会期:2007年12月2日(日)~8日(土) 10:00~18:30

会場:文房堂ギャラリー(東京都千代田区神田神保町1-21-1文房堂ビル4F)

初日17:00よりオープニングパーティーを行います。

卒業生であればどなたでも出品できる小品展は、校友会の目的そのものである卒業生の交流、交歓の場となっています。最近は、若い卒業生の参加も増え、搬入、搬出のお手伝いにご協力いただいているます。昨年度の出品者数は167名、作品点数243点、売上金が約143万円でした。売上金より経費と画料をさしひき、私費留学生5名へ奨学金をお渡しすることができました。ご協力、ありがとうございました。

Bumpodo
GALLERY



役員改選のご報告

2007年7月21日の定期総会において役員改選を行いました。退任された理事・幹事の方々には、任期中はお忙しい中にもかかわらず、会議へのご出席、各事業部担当、ボランティア活動など多大なご協力をいただきました。深く御礼申し上げます。

新任幹事

武田州左('85日画 学内)

退任理事

中森陽三('59油画 学内) 茂木一成('60国画 学外) 向田吉彦('64映画 学外)
檜垣 檻('68染織 学内) 星野 章('70映画 学内) 和田達也('81PD 学内)

退任幹事

高辻かおり('94芸術 学内)

訃報

長瀬 進 神奈川支部長。享年70歳、2007年10月6日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

あなたの展覧会・イベント情報の募集

あなたの展覧会やイベント情報を校友会のホームページ「今月の展覧会」に掲載しませんか?パソコンをお使いでない方は、DMをお送りいただければこちらで掲載いたします。また、個人のホームページをお持ちの方は、「卒業生のHPリンク集」に、ご登録をお願いいたします。あなたの制作や活動を広く知っていただく場としてご活用ください。

編集後記

八王子キャンパスで学生時代を過ごされた方は、表紙の航空写真に驚かれたのではないでしょうか?山が開墾されてキャンパスができるんですね。そして今は…特集でもお伝えしましたが、正会員カードの発行準備を色々な方にご協力をいただきながら着々と進めてあります。校友会は卒業生と大学を結ぶ架け橋です。ぜひ、このカードを持って、新しい図書館や美術館に足を運んでみてください! (栗原)

お忘れなく! 住所変更は校友会へ

卒業生の名簿管理は校友会で行っています。変更がある場合は、校友会事務局へご連絡ください。また、個人情報の取り扱いについて何か不都合な点などありましたら、事務局までお問い合わせください。

校友会事務局へのお問い合わせ先

Tel 03-5758-7738 Fax 03-5758-7739
E-mail alt@tamabi.ac.jp
URL <http://www.tamabi.ac.jp/>

多摩美術大学校友会 会報「alt」No.13

発行日:2007年11月15日

発行:多摩美術大学校友会事務局

編集:武正秀治・伊藤恵夫・末井志野

栗原真依子・中井まこと・田中麻衣子

AD・D:末井志野

印 刷:有限会社グラフィックケイ・エム・エー

No.13
Autumn 2007

alt